

4月から新たな一歩を踏み出します

# 厚岸翔洋高等学校



平成21年4月、水産高校と潮見高校が統合して誕生する厚岸翔洋高校。1月20日からは願書の受け付けも始まり、いよいよ現実味が帯びてきます。今月号では開校に先駆け、翔洋高校の気になる点をお伝えします。

## 校章は『3つの三角形』

学校のシンボルとなる校章は、水産高校、潮見高校の伝統を受け継ぎ、新たな高校として飛躍していく姿を3つの三角形で表すとともに、中央に太平洋の水平線を、未来を見つめる姿として表したものです。



校章



ロゴマーク

## 校名は『厚岸翔洋高校』

平成20年10月に開催された道議会において、新設校の校名は『厚岸翔洋高校』に決まりました。平成19年12月から約2カ月間にわたり校名の公募を行い、71案の中から統合推進委員会等において3つの候補を決定し、道教委の内定の後、道議会で議決されたものです。

『翔洋』からは『大きな太平洋にはばたく前向きなイメージ』が連想され、清新で希望ある学校生活が期待できます。

## 制服は『ブレザータイプ』

水産高校のシンボルともいえる『チュウニック型』の制服は姿を消し、翔洋高校では濃紺をベースとした『ブレザータイプ』になりました。町内中学生のアンケート結果でも、新設校の制服はブレザータイプが6割以上を占め、特に女子生徒は圧倒的にブレザータイプでした。

伝統のデザインであるチュウニック型に名残を惜しむ声もありましたが、新設校という新しいイメージ、明るく若々しいイメージの制服として、4月からは町内でも見かけることとなります。



## 校歌は『厚岸の自然をイメージ』

校歌の歌詞は、一般公募により応募された3作品から、釧路市在住の渡辺政之さんの詞が採用されました。厚岸の自然の奥深さを盛り込み、全体的にやわらかい表現でまとめられています。

また作曲は、札幌交響楽団のトランペット奏者である、福田善亮さんが担当しました。



作曲者の手書きの楽譜です

## 厚岸翔洋高校校歌

潮の詩聞こえる 学舎  
夕陽に燦めく 太平洋  
水平線の向こうが 未来  
見果てぬ夢が そこにある  
帆を切って 船を出そう  
厚岸翔洋 われらが母校  
山の詩聞こえる 学舎  
あやめ萌え 咲き誇る桜  
地平線の向こうが 希望  
新たな世界が そこにある  
現在を見つめて 明日を読もう  
厚岸翔洋 われらが母校  
山の詩聞こえる 学舎  
とうとうと流るる 清水  
大空の向こうが 真理  
永遠の願いが そこにある  
手をとりあつて ともに進もう  
厚岸翔洋 われらが母校

## 学科は『普通科と海洋資源科』

翔洋高校は、普通科(2学級)と海洋資源科(1学級)の2学科(3学級)を有します。

1学年は両科の生徒が混在するクラス編成となり、普通科の生徒も体験乗船を行い、水産系学科と普通科を併置する道内唯一の高校として、その特色を最大限に活かします。

2、3学年では、それぞれの学科に分かれ、普通科では選択教科を設定し、進学や就職などさまざまな進路希望に対応します。海洋資源科は、漁業を学ぶ『生産技術』と、食品衛生や調理などを学ぶ『調理技術』の2コースが選択でき、水産業や食文化を担うスペシャリストを育てます。

## 翔洋高校の『5つの使命』

翔洋高校では『翔洋高校の生徒としての自覚と誇りを持ち、未来にはばたく人の育成をめざして』を学校目標とし、5つの使命を掲げています。

### ■生徒に対して

生徒一人ひとりの能力・適性や、興味・関心等に応じ、夢や希望を育み、生徒が生き活きと活躍する高校

### ■保護者に対して

生きる力を身に付けさせ、誠実で、思いやりを持った社会人を営む高校

### ■地域社会に対して

厚岸町や道東、本道の地域社会を担う、リーダーを育む高校

### ■産業界に対して

望ましい勤労観・職業観を身に付けさせ、地元産業経済界を担う将来のスペシャリストを育む高校

### ■教職員に対して

専門性や資質・能力など教職員一人ひとりの力量を高め、育む高校



## 開校式は『4月9日』

4月の開校に向け、着々と準備を進めており、施設面ではグラウンドや調理室の改修、集団調理室やメモリアルルームの新設などが行われます。

真新しい初めて見る制服を身にまとった、翔洋高校の生徒を目にするのはもう直ぐです。『差別することなく、全ての人を愛し、力を尽くして学業や仕事に励む(翔洋高校校訓)』を胸に、新しい第一歩を踏み出すことを期待します。